

2019年度事業報告

(1) 学術集会および会務

A) 学術集会

1. 第67回総会（2019年5月9日～11日）
会場：東京ドームホテル
会長：清田 浩（東京慈恵会医科大学葛飾医療センター泌尿器科）
2. 第66回東日本支部総会（2019年10月16日～18日）
会場：仙台国際センター
会長：藤村 茂（東北医科薬科大学薬学部臨床感染症学教室）
3. 第67回西日本支部総会（2019年11月7日～9日）
会場：アクトシティ浜松
会長：岩崎博道（福井大学医学部附属病院感染制御部）
4. 関連国際学会
31st International Congress of Antimicrobial Chemotherapy
2019年11月6日～9日 ドバイ

B) 会務

1. 年度末正会員数 8,102名
年度末賛助会員数 22団体、団体会員数 106団体
2. 2019年度評議員会、同定期総会は2019年5月9日に東京ドームホテルで開催された。
3. 新評議員（2019年4月～2020年3月）
東日本支部12名（現在 212名）
金坂伊須萌（東邦大学看護学部感染制御学研究室）
佐々木結花（独立行政法人国立病院機構東京病院呼吸器センター呼吸器内科）
佐村 優（医療法人社団緑成会横浜総合病院薬剤科）
富田 治芳（群馬大学大学院生体防御機構学細菌学分野・薬剤耐性菌実験施設）
中西 康大（東海大学医学部附属八王子病院口腔外科）
花井 雄貴（東邦大学医療センター大森病院薬剤部）
菱木はるか（千葉大学医学部附属病院小児科）
平野 龍一（医療法人札幌麻生脳神経外科病院薬剤部）
藤巻 一雄（富士フイルム富山化学（株）低分子メディカルアフエアーズ部）

保科 斉生（東京慈恵会医科大学 感染制御科）

宮入 烈（国立研究開発法人国立成育医療研究センター生体防御系内科部
感染症科）

横田 伸一（札幌医科大学医学部 微生物学講座）

西日本支部 9名（現在 203名）

賀来 敬仁（長崎大学病院検査部）

串間 尚子（福岡大学病院呼吸器内科）

後藤 憲志（久留米大学医学部小児科学教室）

助川信太郎（香川県立中央病院歯科口腔外科）

千酌 浩樹（鳥取大学医学部附属病院高次感染症センター／感染症内科）

中馬 真幸（徳島大学病院臨床試験管理センター）

野口 真吾（戸畑総合病院内科）

萩原 真生（愛知医科大学病院分子疫学・疾病制御学寄附講座）

保科 隆之（産業医科大学小児科）

4. 理事会 5回開催

2019年4月、7月、9月、12月、2020年3月

C) 事業報告

1. 編集委員会

1) 日本化学療法学会雑誌（委員長 舘田一博）

・編集委員会 4回開催

・編集状況

2019年 第66巻3号～6号

一般誌 4冊（掲載論文数30編）

2020年 第67巻1号～2号

一般誌 2冊（掲載論文数18編）

その他編集中 1冊

・英文での投稿を認めることになった為、投稿規定を改定した。

2) Journal of Infection and Chemotherapy（委員長 高橋 聡）

・編集委員会 4回開催

・編集状況

2019年

Vol. 25 No.4～12（掲載論文数 161編）

2020年

Vol. 24 No.1～3（掲載論文数 87編）

・電子版を12号、冊子版を2号合併号として5冊発刊した。

- ・2020年1月より、出版社（エルゼビア社）との出版契約の更新に伴い、投稿規定が改定され、冊子体の印刷および配布を中止した。
- ・Reviewer of the yearの規程を検討し、浦上宗治評議員（佐賀大学医学部附属病院感染制御部）が受賞した。
- ・JIC Award受賞

生方公子およびThe AOM Surveillance Study Group

「Genetic characteristics and antibiotic resistance of *Haemophilus influenzae* isolates from pediatric patients with acute otitis media after introduction of 13-valent pneumococcal conjugate vaccine in Japan」

(Vo.25 No. 9 p. 720~726)

3) 用語委員会（委員長 石井良和）

略語（レレバクタム／イミペネム／シラスタチン、ソリスロマイシン）の制定および遺伝学用語改定について検討した。

2. 学術委員会（委員長 岩崎博道）

- ・学術奨励賞受賞者

第67回総会

基礎部門

金坂 伊須萌（東邦大学看護学部感染制御学）

「Daptomycin 非感受性 MRSA における同薬感受性化に関する細菌学的解析」

臨床部門

尾上 知佳（富山大学大学院医学薬学研究部医療薬学研究室）

「テイコプラニンの薬物動態および有効性の変動を予測するクリニカルファーマコメトリクス解析」

日本化学療法学会雑誌 第67巻3号 p. 376-384

広中 梨沙（京都府立医科大学附属病院 薬剤部）

「小児患者におけるテイコプラニン血中トラフ濃度 15 μ g/mL 以上での安全性と負荷投与後のトラフ濃度に対する影響因子の検討」

Journal of Infection and Chemotherapy vol.25 (6) p. 437- 443

浦上 宗治（佐賀大学医学部附属病院感染制御部）

「Clinical pharmacokinetic and pharmacodynamic analysis of daptomycin and the necessity of high-dose regimen in Japanese adult patients」

3. 学会賞選考委員会（委員長 宮下修行）

志賀潔・秦佐八郎記念賞および上原感染症・化学療法研究奨励賞の候補者について検討し選考を行った。

志賀潔・秦佐八郎記念賞

受賞者：八木澤守正（慶應義塾大学薬学部創薬物理化学講座）

研究テーマ：「日本における抗菌薬研究開発の過去、現在、未来」

上原感染症・化学療法研究奨励賞

受賞者：佐藤和秀（名古屋大学高等研究院病態内科学講座呼吸器内科）

研究テーマ：「近赤外を用いた光抗菌療法」

4. 国際渉外委員会（委員長 大毛宏喜）

- 1) 31st ICC (International Congress of Antimicrobial Chemotherapy; 2019年11月6～9日, ドバイ) において 当学会との共催セッション「Treatment Strategy for Drug-resistant Gram Negative Infections」および「Newer diagnosis methods and diagnostic stewardship」を行った。
- 2) 18th Asia-Pacific Congress of Clinical Microbiology and Infection (シンガポール) において当学会との共催セッション「Current status of ESBL producing bacterial infections」および「Management of Blood stream infections」を企画した。
- 3) ISAC (International Society of Antimicrobial Chemotherapy) Executive Committeeの候補者について検討し、投票を行った。
- 4) 32nd ICC (International Congress of Antimicrobial Chemotherapy; 2021年11月21～24日, パース: オーストラリア) においての当学会との共催セッション「Management of *C. difficile* Infection」および「Management of drug resistant infections」を企画した。

5. 3学会合同ブレイクポイント臨床応用検討委員会（委員長 舘田一博）

ラスクフロキサシンのブレイクポイントおよびカルバペネム系抗菌薬のブレイクポイント見直し作業を行った。

6. 抗菌化学療法認定医認定制度審議委員会（委員長 青木洋介）

・抗菌薬適正使用生涯教育セミナー開催

年次テーマ：ICD と AST の活動を支援する

第50回 2019年5月9日（木）東京ドームホテル

第51回 2019年6月8日（土）東京国際フォーラム

第52回 2019年10月16日（水）仙台国際センター

第53回 2019年11月7日アクトシティ浜松

・委員会を数回開催した。

・第51回の映像収録し、e-learningを作成した。

・2019年12月1日（日）に東京慈恵会医科大学で指導医試験を実施した。

・本年度指導医・認定医・認定歯科医師新規申請、認定更新申請を受付し、認定した。

・2020年1月1日付けで認定証を発行した。

・抗菌薬適正使用生涯教育テキスト改定版（2001年）の改訂作業を行った。

7. 抗菌化学療法認定薬剤師制度委員会（委員長 森田邦彦）

・抗菌化学療法認定薬剤師講習会を開催した。

第21回 2019年5月24日（金） コングレスクエア日本橋

第22回 2019年11月1日（金） 神戸国際会議場

- ・認定薬剤師試験を2020年2月2日（日）に砂防会館別館シェーンバッハ・サボールで実施した。
- ・2020年3月1日付で認定薬剤師を認定した。
- ・抗菌化学療法認定薬剤師テキストの改訂作業を行った。

8. 三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス委員会（実務委員長 松本哲哉）

1) 第5回（2013年）

歯科口腔外科領域感染症（初回：30 薬剤・目標 400 株・解析 847 株）

論文を Journal of Infection and Chemotherapy (JIC) に投稿し、掲載（2020：26(9):882-889）した。

2) 第6回（2014年）

呼吸器感染症（7回目:47 薬剤・目標 1000 株・解析 1,534 株）

論文を JIC（2019：25(9):657-668）に掲載した。

3) 第7回（2015年）

複雑性尿路感染症（3回目:39 薬剤・目標 1000 株・解析 833 株）

論文を JIC 投稿し掲載（2020：26(5):418-428）した。

急性単純性膀胱炎（2回目:19 薬剤・目標 500 株・解析 263 株）

論文を JIC（2019:25(6):413-422）に掲載した。

耳鼻咽喉科領域（2回目:40 薬剤・目標 1000 株・解析 742 株）

40 薬剤の感受性測定解析し、報告書にまとめた。

成績を日本感染症学会（2019年4月・名古屋）、日本化学療法学会（2019年5月・東京）、日本臨床微生物学会（2020年1月・金沢）にて報告した。

4) 第8回（2016年）

呼吸器感染症（8回目 42 薬剤・目標 1000 株・解析 1062 株）

論文を JIC に投稿し、掲載（2020：26(9):873-881）した。

尿道炎（淋菌）（3回目：20 薬剤・目標 200 株・解析 87 株）

20 薬剤の感受性測定解析し、報告書にまとめた。

全国 30 施設より 147 検体を収集し 87 株を分離し、20 薬剤の感受性測定解析し、報告書にまとめた。

成績を日本感染症学会（2019年4月・名古屋）、日本化学療法学会（2019年5月・東京）、日本臨床微生物学会（2020年1月・金沢）にて報告した。

尿道炎（クラミジア）（3回目：9 薬剤・目標 200 株・解析 41 株）

2017年6月までに全国 25 施設より 199 検体収集し、そのうち分離した 41 株の感受性を 9 薬剤で測定中。

5) 第9回（2017年）

小児科領域感染症（初回：32 薬剤・目標 1000 株・解析 926 株）

全国 18 施設より収集した 926 株の感受性測定解析し報告書にまとめた。

成績を日本臨床微生物学会（2020年1月金沢）にて報告した。

6) 第10回（2018年）

手術部位感染症（SSI）（3回目：43 薬剤・目標 1000 株・解析 498 株）

菌株収集を終了し、感受性測定を行った。

歯科・口腔外科領域感染症（2回目:29薬剤・目標400株）

検体収集を終了した。

7) 第11回（2019年）

皮膚科領域感染症（2回目）

全国37医療機関にて目標1000株を34薬剤のMIC測定予定にて実施中。

呼吸器感染症（9回目）

全国37医療機関にて目標1100株を42薬剤のMIC測定予定にて実施中。

8) VRE株収集（三学会合同リネゾリド適正使用推進委員会からの依頼）

第3回（収集期間2018年6月～2019年5月）を実施し8株を収集した。

収集したVRE株の感受性測定結果を解析し報告書にまとめた。

9) ホームページの更新

各領域の確定結果をデータベースにアップデートした。

9. レジオネラ治療薬評価検討委員会（委員長 宮下修行）

第67回日本化学療法学会西日本支部総会（浜松）において、レジオネラのサブ解析について報告した。また、JICに「レジオネラ肺炎の原因種ならびに血清群分布」を投稿し、掲載された。

10. 抗菌薬TDMガイドライン作成委員会（委員長 竹末芳生）

1) バンコマイシンの安全性に関するメタ解析およびTEIC、VCM、アミノグリコシド（AMK, GM, TOB, ABK）、VRCZに関するクリニカルクエスションに対するsystematic reviewとメタ解析が全て終了した。またVRCZに関してはTDMによる副作用発現予防とコントロールに関する多施設共同研究（401例）の論文の執筆が終了し、来週投稿予定である。またTEIC、VCMに関しては改訂版で推奨する投与regimenに関する検証の論文はすでに投稿した。

2) 世界のながれは、従来のトラフ値だけでなく、AUCでの投与設計にシフトしつつある。そのためAUCを求めるソフトウェア開発ワーキングを立ち上げた。母集団解析に関しては1000例をこえるデータが集まったが、これに足りない採血ポイントでの濃度を追加する。すでに利用するソフトは開発済みで、これに母集団データを組み入れれば完成である。

11. JAID/JSC感染症治療ガイド・ガイドライン作成委員会（委員長 青木信樹）

・「JAID/JSC感染症治療ガイドライン2018—男性尿道炎とその関連疾患—」の英語版をJICに投稿し、掲載された。

・「JAID/JSC感染症治療ガイドライン2017—敗血症およびカテーテル関連血流感染症—」の英語版をJICに投稿し、掲載された。・「JAID/JSC感染症治療ガイド2019」を11月に発行した。

12. MRSA感染症の治療ガイドライン作成委員会（委員長 松本哲哉）

新規抗MRSA薬（テジゾリド）に関連した項目を中心に「MRSA感染症の治療ガイドライン2017改訂版」のマイナーな改訂作業を行い、2019年6月に電子版「MRSA感染症の治療ガイドライン改訂版2019」を発行した。

13. 術後感染予防抗菌薬適正使用に関するガイドライン作成委員会
(委員長 竹末芳生)

術後感染予防抗菌薬ガイドラインの眼科領域および脳神経外科領域の追補を作成し、パブコメを行った。

14. CDI診療ガイドライン作成委員会 (委員長 國島広之)

- ・「*Clostridioides (Clostridium) difficile* 感染症診療ガイドライン」の全文を日本化学療法学会雑誌 68 巻 1 号に掲載した。
- ・「*Clostridioides (Clostridium) difficile* 感染症診療ガイドライン」の英訳版の作業を開始した。

15. 多剤耐性菌に対する治療戦略ワーキング委員会 (委員長 三嶋廣繁)

第67回総会時に、委員会報告として、多剤耐性グラム陰性菌感染症に対する治療戦略の基盤研究として実施した *in vitro* および *in vivo* 研究を3施設から発表した。発表内容は、学会和文誌、学会英文誌 JIC に発表した。

16. 7学会合同感染症治療・創薬促進検討委員会 (委員長 舘田一博)

7月31日に日内会館会議室において下記の講演会を開催した。

薬剤耐性 (AMR) 対策としての研究開発促進策 製薬協の取組み

俵木 保典 (日本製薬工業協会)

AMEDにおけるAMR関係の活動状況

藤江 昭彦 (日本医療研究開発機構)

抗菌薬の安定供給 (供給不足の原因、製造上の課題、対応や要望など)

高橋 義三郎 (Meiji Seikaファルマ)

総合討論

17. 抗微生物薬適正使用推進検討委員会 (委員長 川口辰哉)

- ・ JICに抗菌薬適正使用支援プログラム (ASPs) 現状調査のアンケート (第1回目アンケート) の追加解析データが掲載され、東日本支部総会および西日本支部総会で報告した。
- ・ 2018年度診療報酬改定による「抗菌薬適正使用支援加算」導入によるASPsへの影響を明らかにするために、第1回目アンケートと同様にICD資格保持者の施設を対象とした第2回目のアンケートを実施した。

18. 将来計画検討委員会 (委員長 清田 浩)

第67回総会時に委員会を開催し、1) 今後の学術大会開催のあり方、2) 多剤耐性菌に対する治療戦略ワーキングの今後の進め方、3) 三学会合同抗菌薬感受性サーベイランスにおける保存菌株について検討を行った。

19. 外来抗菌薬適正使用調査委員会 (委員長 大曲貴夫)

日本化学療法学会雑誌およびJICに委員会報告として「全国の診療所医師を対象と

した抗菌薬適正使用に関するアンケート調査」を投稿し、掲載された。

20. 関連学会対策ワーキング（委員長 三嶋廣繁）

日本化学療法学会の医師会員数増加にむけて、各種学会へのアプローチを試みてきたが、いずれの学会も反応が悪いのが現実であった。現在は、最も反応が良い日本プライマリ・ケア連合学会との連携を模索している段階であり、当該学会との強毒シンポジウムなどを通じて交流を深めることにより医師会員の増加を目指している。

21. 学術集会開催支援ワーキング（委員長 石井良和）

2020年および2021年に開催の各学術集会の予算書および業務委託に関する見積書について確認した。

22. 社会保険委員会（委員長 迎 寛）

医療機器・体外診断用医薬品供給停止品目および経過措置移行予定品目について検討した。

23. インфекションコントロールドクター (ICD)制度

2019年12月 認定者 91名

(2) 2019年度事業報告の附属明細書について

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する事業報告附属明細書「事業報告書内容を補足する重要な事項」に記載すべき事項はない。

2020年度事業計画

事業計画

(1) 学術集会および会務

A) 学術集会

1. 第68回総会（2020年6月11～13日から9月12日～14日に延期）
会場：神戸国際会議場、神戸ポートピアホテル
会長：竹末芳生（兵庫医科大学感染制御学）
2. 第67回東日本支部総会（2020年10月21日～23日）
会場：グランドニッコー東京 台場
会長：石井良和（東邦大学医学部微生物・感染症学講座）
3. 第68回西日本支部総会（2020年11月5日～7日）
会場：アクロス福岡
会長：柳原克紀（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科病態解析・診断学分野）
4. 本年関連国際学会として
18th Asia Pacific Conference on Clinical Microbiology and Infection
2020年11月5日～7日*（シンガポール）
※会期が2021年11月11日～13日に延期

B) 会務

1. 理事会、評議員会の開催について
理事会年6回、評議員会年1回を予定
2. 関連団体への対応
日本医学会に評議員及び医学用語委員会委員を、内科系学会社会保険連合にそれぞれの委員を派遣する。

C) 事業計画

1. 編集委員会

- 1) 日本化学療法学会雑誌
・6冊発行予定（第68巻3～6号、第69巻1～2号）
・編集委員会を4回開催する。
- 2) Journal of Infection and Chemotherapy
・電子版12号を発刊する予定。
・編集委員会を学術集会時に開催する。
・JIC賞の選考を行う。
・Reviewer of the yearを検討する。

2. 用語委員会

抗菌化学療法用語集の改訂および真菌名に関する学会としての取り決めに検討する予定である。

3. 学術委員会

学術奨励賞を選考する。

4. 学会賞選考委員会

志賀潔・秦佐八郎記念賞および上原感染症・化学療法研究奨励賞の選考を行う。

5. 国際渉外委員会

関連国際会議として、2020年11月5日～7日に18th Asia-Pacific Congress of Clinical Microbiology and Infectionがシンガポールで開催される予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により会期が2021年11月11日～13日に延期され、当学会と予定されていた共催セッション「Current status of ESBL producing bacterial infections」および「Management of Blood stream infections」は再調整することになった。

6. 三学会合同ブレイクポイント臨床応用検討委員会

ラスタフロキサシンのブレイクポイントおよびカルバペネム系抗菌薬のブレイクポイントを発表する予定である。

7. 抗菌化学療法認定医認定制度審議委員会

①抗菌薬適正使用生涯教育セミナー

- ・抗菌薬適正使用生涯教育セミナー開催予定

第54回 2020年秋頃 e-learning

第55回 2020年9月12日（土）神戸国際会議場

第56回 2020年10月21日（水）グランドニッコー東京 台場

第57回 2019年11月5日（木）～7日（土）アクロス福岡

②抗菌化学療法認定医および指導医の資格認定

- ・2020年10月末 指導医・認定医・認定歯科医の認定申請を締め切る。
- ・2020年12月 指導医試験を実施し、認定申請審査の委員会を開催する。
- ・2021年1月1日付けで認定する。

③抗菌薬適正使用生涯教育テキスト

- ・抗菌薬適正使用生涯教育テキスト（第3版）を10月に発行する予定。

上記事業計画を円滑に遂行するため、委員会を数回開催予定。

8. 抗菌化学療法認定薬剤師制度委員会

- ・第22回講習会を日本TDM学会前日の2020年5月22日（金）に、TKPガーデンシティ栄駅前において開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大にともない、中止となった。
- ・第23回講習会を日本医療薬学会年会前日の2020年9月19日（金）に名古屋国際会議場にて開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大にともない、中止となった。
- ・認定薬剤師試験を実施し、認定を行う予定である。

- ・2020年3月1日付けで認定証発行する予定である。
- ・抗菌化学療法認定薬剤師テキスト改訂版を今年度中に発行する予定である。

9. 三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス委員会

1) 第7回(2015年)

耳鼻科領域感染症(2回目)

嫌気性菌を含めた成績を日本感染症学会(2020年8月東京)日本化学療法学会(2020年9月・神戸)にて報告し、論文を執筆しJICに投稿し、掲載(2020:26(9):890-899)されたが、データの誤りがあった為、Corrigendumを投稿した。

2) 第8回(2016年)

尿道炎(淋菌)(3回目)

論文を執筆しJICに投稿予定。

尿道炎(クラミジア)(3回目:9薬剤・目標200株・解析41株)

41株の感受性を測定し、報告書にまとめ、論文を執筆しJICに投稿予定。

3) 第9回(2017年)

小児科領域感染症(初回)

論文を執筆しJICに投稿した。

4) 第10回(2018年)

手術部位感染(SSI)(3回目)

報告書をまとめ、論文を執筆しJICに投稿予定。

歯科口腔外科領域(2回目)

収集株の感受性測定を開始し、解析・報告予定。

5) 第11回(2019年)

皮膚科領域感染症(2回目)

全国37医療機関にて目標1000株を34薬剤のMIC測定解析予定。

呼吸器感染症(10回目:42薬剤・目標1000株)

全国37医療機関にて2020年6月まで菌株収集を行っていたが、新型コロナウイルス感染症の影響で菌株が集まらなかった為、2020年12月まで菌株収集期間を延長することになった。

6) 第12回(2020年)

単純性尿路感染症(3回目)

参加30施設、19薬剤、目標400株で実施予定。

複雑性尿路感染症(4回目)

参加30施設、39薬剤、目標800株で実施予定。

耳鼻科領域感染症(3回目)

40薬剤、実施期間2021年1月~2021年12月で実施予定。

7) ホームページの更新

各領域の確定結果をデータベースにアップデートする。

10. レジオネラ治療薬評価検討委員会

JICにサブ解析を投稿する予定である。

11. **抗菌薬TDMガイドライン作成委員会**

2020年6月の総会で改訂の内容を紹介し、その後11～12月にドラフト版を発表する。また2021年3月に抗菌薬TDMガイドライン改訂版2021を発行する予定である。
12. **JAID/JSC感染症治療ガイド・ガイドライン作成委員会**

JAID/JSC感染症治療ガイド2019の改訂作業を始める予定である。
13. **MRSA感染症の治療ガイドライン作成委員会**

Mindsに基づいて、MRSA感染症の治療ガイドラインの改訂作業を実施する予定である。
14. **術後感染予防抗菌薬適正使用に関するガイドライン作成委員会**

術後感染予防抗菌薬ガイドラインの眼科領域および脳神経外科領域の追補を含めた冊子を発行する予定である。
15. **CDI診療ガイドライン作成委員会**

「*Clostridioides (Clostridium) difficile* 感染症診療ガイドライン」の英訳版をJICに投稿する予定である。
16. **多剤耐性菌に対する治療戦略ワーキング委員会**

委員会主導で実施した基盤研究を基にして、臨床研究の実施を予定している。
17. **7学会合同感染症治療・創薬促進検討委員会**

AMEDと連携し、Pull型インセンティブの在り方に関してシンポジウムの開催する予定である。
18. **抗微生物薬適正使用推進検討委員**
 - ・2020年6月に開催される本学会総会で、第2回目アンケートの結果を報告する予定である。また、その結果次第では、新たな学会提言を作成する予定である。
 - ・「抗菌薬適正使用支援プログラム実践のためのガイダンス（ASPガイダンス）」の改訂作業に着手する予定である。
19. **将来計画検討委員会**

今後の活動について検討する予定である。
20. **外来抗菌薬適正使用調査委員会**

外来抗菌薬適正使用調査委員会による第2回アンケート調査の実施する予定である。
21. **関連学会対策ワーキング**

日本プライマリ・ケア連合学会との連携を強化することにより医師会員の増加を目指す。
22. **学術集会開催支援ワーキング**

各学術集会の予算書および業務委託に関する見積書を確認する予定である。

23. 社会保険委員会

医療機器・体外診断用医薬品供給停止品目および経過措置移行予定品目や2020年診療報酬改定に関する検討を行う予定である。

24. 利益相反委員会（委員長 河合 伸）

日本医学会の動向をみて、利益相反指針および細則を改定する予定である。

26. 倫理委員会

要望があれば適宜、対応していく予定である。

27. インфекションコントロールドクター(ICD)制度

申請締切：2020年10月31日